

「やっぱり 止めよう！徳山ダム導水路」集会 2016年8月11日

「長良川河口堰開門委員会の経過報告と 徳山ダム導水路問題」

伊藤 達也（法政大学）

0.「長良川河口堰開門調査」のきっかけ

現在、検討が進められている長良川河口堰の開門調査に向けての取り組みのきっかけは、大村秀章愛知県知事・河村たかし名古屋市長が2011年2月の知事選、市長選において、「アイチ・ナゴヤ共同マニフェスト」を提出し当選したことによる。明らかにダム・河口堰を問題とする方向性を持ったマニフェストであった。

『10 大環境政策』で環境首都アイチ・ナゴヤを

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1. 藤前干潟を市民とのふれあいのメッカに | 2. 2010COP10を継承 |
| 3. 木曽川水系連絡導水路事業の見直し | 4. 長良川河口堰の開門調査 |
| 5. 世界最先端の自動車環境都市の実現へ | 6. 自転車環境を整備 |
| 7. バイオマスエネルギーの活用を推進 | 8. 太陽光発電の支援 |
| 9. 都市緑化の推進 | 10. 河川の自然再生 |

1.「長良川河口堰検証プロジェクトチーム」の立ち上げ

(1) 専門委員会の概要(2011年7月14日～11月7日 11回の会議)

マニフェストに従って、まずは愛知県で「長良川河口堰の開門調査」のための委員会が立ち上がった。委員は8名(藤田委員は第9回、木本委員は第10回まで)、オブザーバー2名。委員の特徴は、開門派6名、開門反対派4名で、会議そのものは傍聴席から発言する国土交通省の役人を含め、なかなか刺激的であった。

会議は完全オープンで開催され、傍聴席からの発言も適宜取り上げられた。批判も自由であり、パブリックコメントは誹謗中傷の嵐だった。資料収集、報告書の作成は全て委員の手で行った。

参考) PT会議(2011年6月8日～2012年1月17日)

(2) 報告書の提出

(<http://www.pref.aichi.jp/0000048111.html>)

委員会の仕組み

愛知県知事

設置



提言



長良川河口堰検証プロジェクトチーム

- 関係者に対するヒアリング
- 専門的知見からの知見の集約・整理

報告



長良川河口堰検証専門委員会

愛知県知事への報告の流れ

2012年1月、完成した報告書(2011.11)が知事に渡される。

運用が開始されて約20年が経過したが、この間長良川河口堰について、このように様々な角度から評価を加えたものはない(少なくとも公的部門において)。ただ、報告書はあくまでも問題点の整理をした程度のものであり、開門調査に向けての第1歩に過ぎない。

内容についても調査の実現に向けては足りないところだらけであった。

(3)報告書の内容

専門委員会の報告書(案) 目次

はじめに

1 長良川河口堰建設・運用までの経緯

1-1 構想から計画、実施にいたる経緯

1-2 目的と効果についての事業者側の説明と疑問・批判

2 検証:環境

2-1 水質

2-2 堆積物

2-3 底生生物

2-4 魚類

2-5 植生

2-6 まとめ

3 検証:利水

3-1 開発水利権の目的変更と地域変更

3-2 開発水利権の実際の使用量

3-3 フルプランにおけるダム供給能力の低下の強調

3-4 水道原水としての水質の適格性

4 検証:治水・塩害

4-1 治水計画の検証

4-2 治水効果の検証

4-3 塩害対策の検証

5 検証:費用負担

6 開門調査の必要性和支障の解決策

6-1 開門調査の必要性

6-2 開門すれば何がどう改善されるか

6-3 開門調査への支障と解決策:利水

6-4 開門調査への支障と解決策:塩害

6-5 開門調査への支障と解決策:

堆積物流出の漁場環境への影響

6-6 開門調査に関する合意形成

7 開門調査

おわりに

水余りの断定

表 3-1 長良川河口堰の水利権

						(m ³ /sec)
		工業用水			水道用水	
	当初	1987年	2004年	当初	1987年	2004年
愛知県	6.39	8.39	2.93	2.86	2.86	8.32
三重県	8.41	6.41	6.41	2.84	2.84	2.84
名古屋市	0.00	0.00	0.00	2.00	2.00	2.00
計	14.80	14.80	9.34	7.70	7.70	13.16
		計		使用水利権		
	当初	1987年	2004年	(m ³ /sec)	(%)	
愛知県	9.25	11.25	11.25	2.86	25.4	
三重県	11.25	9.25	9.25	0.732	7.9	
名古屋市	2.00	2.00	2.00	0.00	0.0	
計	22.50	22.50	22.50	3.59	16.0	

資料) 伊藤 (2005)、国土交通省中部地方整備局木曾川下流工事事務所・独立行政法人水資源機構長良川河口堰管理所 (2007)

愛知県の水余り、予備水源化、計画の未定

表 3-3 長良川河口堰における愛知県の開発水量とその使用先（予定を含む）

		開発 水量	2/20 渇水年の 開発水量	備 考
水道 用水	愛知用水	2.86	2.15	現在使用中
	地域	0.94	0.71	安定供給水源。導水路は既存水路を使用（+徳山ダム）
	尾張地域	4.52	3.40	安定供給水源。導水路は検討中。
工業 用水	尾張地域	2.93	2.20	事業計画は未定である。

資料）田口（2011）

(4)開門調査の必要性

開門調査(pp.94～97)

(1)開門についての意見 開門による支障の解決。長良川の環境回復(頻繁な開閉は効果が得られにくい。回遊魚の遡上、降下時期の開放が必要。夏季の高水温、渇水期の浮遊藻類の発生、貧酸素環境の拡大が深刻となる時期の開放が必要)。

(2)開門方法および調査機関

前提:利水に支障を生じさせず、また、塩害が発生しないことを前提に調査

開門調査方法、期間等:10月11日から翌年3月31日のできるだけ早い時から開門して調査を開始する。開門調査期間は5年以上とする。

(3)開門調査の実施方法等を協議する協議機関の設置等

協議機関の設置、具体的調査項目及び方法を検討する委員会の設置

(4)環境の改善効果を最大化し、開門による支障を最小化する

2.「長良川河口堰最適運用検討委員会」の立ち上げと現状

(1)「長良川河口堰最適運用検討委員会」(2012.06～2016. 03.31までに11回)

2012年6月、さらなる検討と開門調査の実施に向けて、愛知県内でできることの検討を優先した「長良川河口堰最適運用検討委員会」が設置された。

委員会内に利水、塩害、環境の3チーム(現在、流域チームを加えて4チーム)が設けられ、それぞれが議論した内容を持ち寄って、開門調査に向けての課題を検討することとなった。2016.03.31までに11回開催されている。

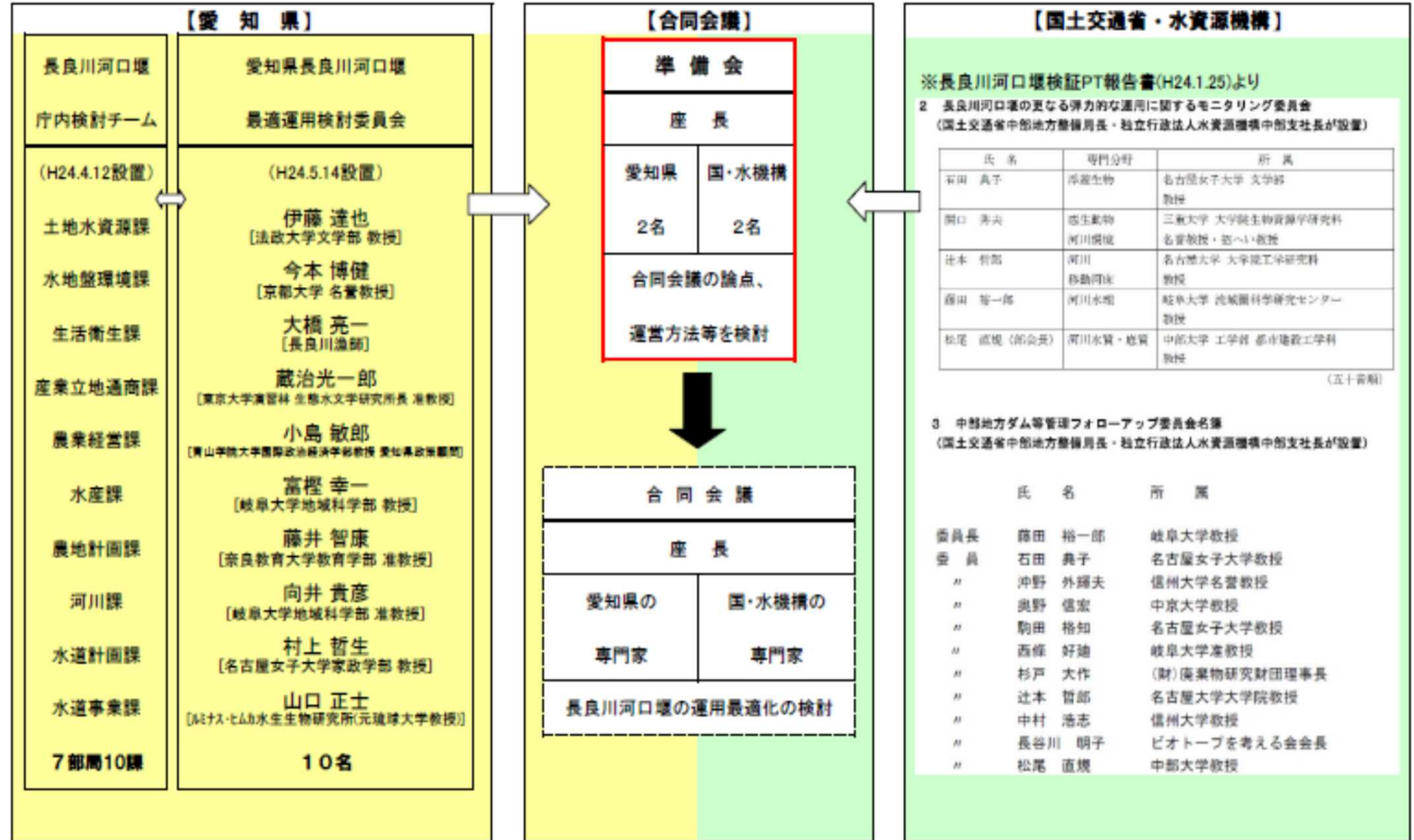
→ 2015年より、「清流長良川流域の生き物・生活・産業」連続講座
(鵜飼い、うなぎ、開門調査:韓国の事例と伝統漁法から学ぶ)

(2) 合同会議の 設置要求

長良川河口
堰合同会議準備会を設置し、
国との合同会
議を要求して
いる。

手詰まり感は
否めない。

長良川河口堰に関する合同会議等について（参考イメージ）



(3)利水面でのさらなる検討の必要性ー6項目ー

- ①水道水の安定供給を確保しつつ行う知多半島の水道水源の切り替え
- ②福原輪中についての塩害防止に関する調査
- ③水道水の安定供給システムに関する検証と、その結果を踏まえた愛知県の水需給のバランス、及び渇水リスクの見直し → 新規水需要計画を利水チームで作成
- ④工業用水道・上水道企業会計適正化
- ⑤愛知県・名古屋市での節水努力の呼びかけ
- ⑥愛知県内の農業用水の取水実態及び使用実態の調査

(4)利水チームの活動内容

大体、2、3ヶ月に1回会議が開かれ、「河口堰の開門調査の利水面からの可能性」、「開門調査時の利水面の問題点」を主に議論している。これまで中心テーマになってきたのは、

どのくらいの長期間、調査をすることができるか、

工業用水、水道用水、農業用水の代替水源をどのように確保するか、である。

- ① 愛知県の水道用水、工業用水
- ② 福原輪中の代替水源
- (③ 三重県の水道用水、工業用水の代替水源)

検証プロジェクトチームの報告書では5年間くらいの調査が望ましいとされたが、国交省の協力が得られていない現状では、他自治体への迷惑をかけずに開門調査を実施するのは簡単ではない。

(5)パンフレットの作成 「166キロの清流をとり戻すために —まずは長良川河口堰の『プチ開門』を実現しましょう—」

① 誰に対してのパンフレットか？

愛知県民、木曽川流域住民、、、それ以上に自治体スタッフ、、、

② 生態系サービスの考え方 — 生態系から人々が得るめぐみ

(Millennium Ecosystem Assessment編、2007)

- ・供給サービス — 資源(食糧・水・木材・繊維)
- ・調整サービス — 生活に影響を与える自然環境の状態

例)洪水は流域内の土地利用状況によって変化する。

ヒートアイランド、クールアイランド

- ・文化的サービス — レクリエーション、審美的・精神的恩恵

例)人類の想像を超えた自然景観が与える感動、豊かな森林が与える安らぎ

- ・基盤サービス — 生活していく基盤そのものの栄養循環・土壌形成・光合成

3. 徳山ダム(木曽川水系連絡)導水路問題をどのように考える？

(1)木曽川水系における水資源開発基本計画

(2004 年6 月15 日閣議決定、2008年6 月3 日一部変更)

木曽川水系連絡導水路事業

事業目的:木曽川、長良川及び揖斐川を連絡する水路等を建設することにより、徳山ダムにおいて確保される水を木曽川及び長良川に導水し、流水の正常な機能の維持(異常渇水時の緊急水の補給)を図るとともに、愛知県の水道用水及び工業用水を供給するものとする。

最大導水量:都市用水毎秒約4m³、異常渇水時の緊急水の補給時毎秒約20m³

予定工期:2006年度から2015年度まで

(2)「木曾川水系連絡導水路事業の関係地方公共団体からなる検討の場」での審議

2009年4月 河村たかし名古屋市長当選

第1回幹事会 2010年12月22日

事業参画継続の意思「有」 愛知県2010年11月30日

名古屋市2010年12月09日(とりあえず)

名古屋市上下水道局次長

「河村市長が当選されまして、国会議員時代から連絡導水路事業の必要性については疑問を持っていたので、一度立ち止まって考えたいという旨のご指示がありました。(中略)この導水路事業は、もともとダムがすでに存在した後の導水路事業の可否、必要性を問うということで、木曾三川全体の水利用、それから渇水リスクの軽減について関係者のご意見も聞きながら検討する必要があるということで、当市単独の検討は非常に困難であると感じておりました。」

**→ ダム使用権等の振替え、既得水利の合理化・転用、渇水調整の強化などの検討
依頼**

第2回幹事会 2011年04月27日

利水代替案、流水の正常な機能の維持対策案の提示

第1回会議 2011年06月01日

愛知県副知事

「知事もマニフェストには導水路事業見直しという項目を掲げておりますけれども、現段階で私ども事務方に対する指示は『いろんな専門家から幅広く意見を聞いてください』という指示をいただいております（中略）、現段階でこれを変更するといった必要の事情がございません。」

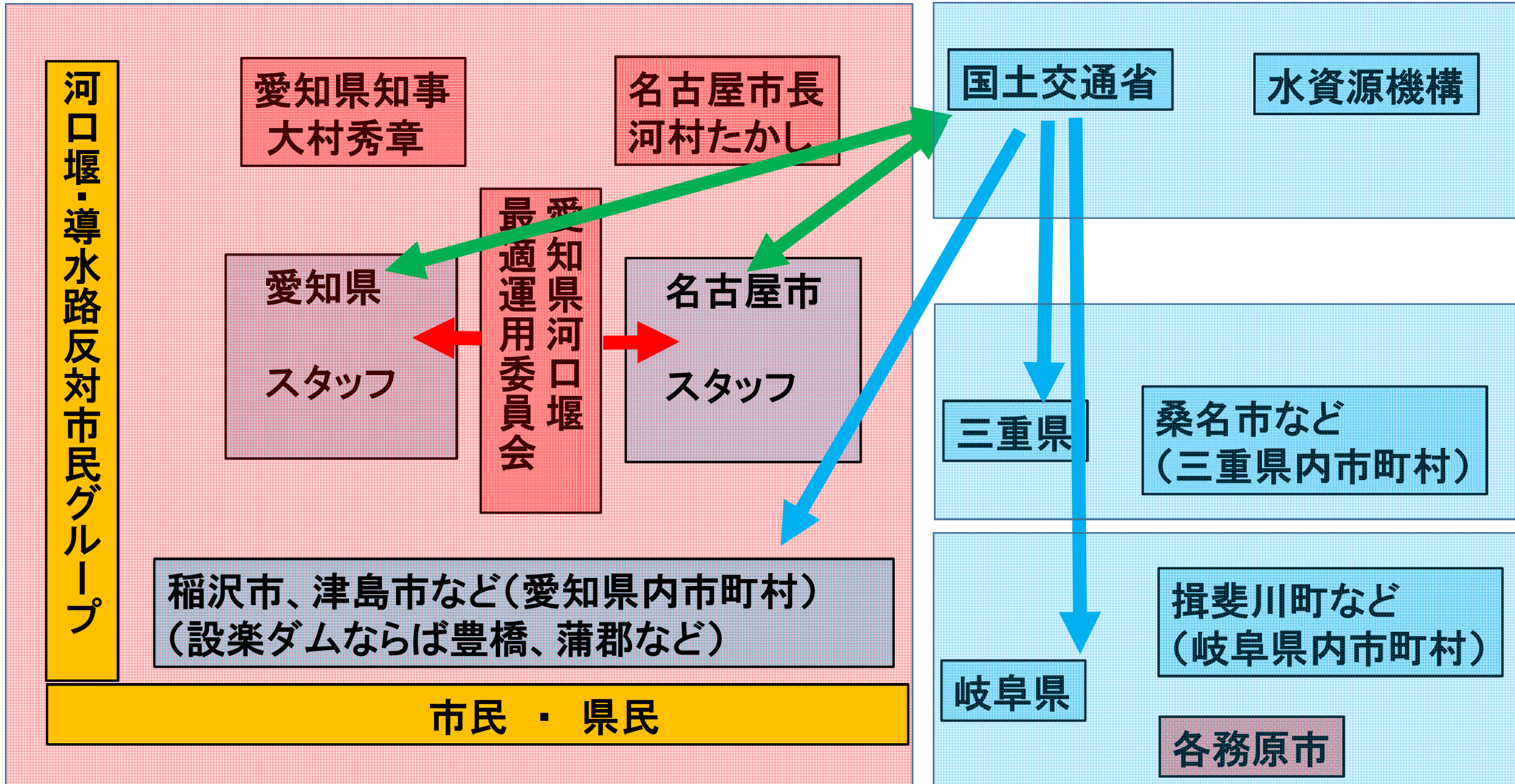
第3回幹事会 2015年11月11日

【稲沢市長(大野)】その河川には動植物、魚類もあると思います。全く渇水になったときに、人だけが残るとい話はいかがなものか。その河川にすむシジミとかアユとかいろいろな生物があると思います。木曽川で言うと今渡にダムがあつたり、木曽川大堰(馬飼頭首工)があつたりします。その下流域というのは、水が流れないと潮が満ち引きしているところがあります。そうすると、塩害という問題や、自然生態系がどうなるか心配しています。名古屋で生態系の COP10 が開催されましたが、それを思うときに、**動植物の生態系も重要であり、飲み水など人を中心とした議論ではいけないのではないか。**節水の話がこの中にありましたけれども、やっぱり一番我慢できるのは人ではないかと思います。人というものは我慢がある程度できるのではないか。ところが、植物はできないと思うんです。枯れてしまったら生態系が崩れてしまうので、このところについては見直す必要があるのではないか。

【津島市長(伊藤)】私ども下流部でありますし、地盤沈下も一番激しいところであります。今私どもが取っておりますのは、やはり地下水を取水制限いたしておりまして、地下水を汲み上げた結果ではなくて、平成6年のときには上からの供給量が少なかったがために沈下した訳であります。

木曽川の流量が減りますと大変塩害も多く、木曽川の近隣部では塩害がだんだん北上しております。これは流水量が本当に減ってきているんだなということでありまして、これも大変大きな問題、生態系もどんどん壊れていくのではないかということを思っています。できるなら木曽川の普段の水量をもう少し多くしていただいて、生態系を守っていくことも大事なことでないかなという具合に思っております。

(3) 「長良川河口堰の開門調査」、「徳山ダム導水路計画の中止」をめぐる利害関係



- ・ 国交省のかたくなさ → 政権交代劇によって悪化？
- ・ 三重県・岐阜県の態度 → 3対1にしたい。
- ・ 市町村レベルの体質 → 案外、ここが面倒
- ・ 市民レベルの関心 → ブームを起こす？
コストからの訴え／生態系サービスの主張
- ・ 愛知県スタッフ、名古屋市スタッフの態度 → 首長のはっきりした姿勢が必要
- ・ 愛知県知事、名古屋市長の態度 → 議会、自治体首長、市民・県民に味方が欲しい